本文

官報

第七拾九號

明治十六年十月一日　月曜日

太政官文書局

○告示

○大藏省告示第九拾四號

金祿公債證書

五百圓　丙ゐ號　貳四參○番　壹枚

右者京都府士族勝山仲繼所有ノ分所在不分明ノ旨昨十五年告第百四拾五號ヲ以テ及告示置候內今般兵庫縣下ニ於テ發見候條此旨更ニ告示候事

明治十六年十月一日

大藏卿松方正義

○敍任

○明治十六年九月廿九日

特旨ヲ以テ位一級被進候事　正三位　澤為量

敍從二位　正三位　澤為量

敍從五位　正六位　中村孝禕

敍正六位　從六位勳六等　岡田好樹

敍正七位　佐野常樹

○東京府達

○東京府丙第百五拾四號

郡區役所

天變地異ハ凡テ氣象ニ關係有之候ニ付雷電雹霰雪霜風雨旱潦地震噴火光物隕石海嘯等乃チ臨時異兆ノ現象有之節ハ時機ニヨリ內務省氣象臺ヨリ直ニ其郡區役所ヘ問合候儀モ可有之趣同省地理局ヨリ照會有之候條其節ハ速ニ應答致スヘシ此旨相達候事

明治十六年十月一日

東京府知事芳川顯正

第79号本文

第79号　本文

○東京府告示

○東京府乙第九拾九號

金祿公債證書

三百圓	丙ち號	八五八三番	三百圓	丙波號	八五〇七番
百　圓	丙ゑ號	壹八五九番	百　圓	丙ゑ號	三三八八番
百　圓	丙ゑ號	五七七八番	百　圓	丙ゑ號	六壹三四番
百　圓	丙ゑ號	六九九七番	百　圓	丙ゑ號	六九九八番
百　圓	丙ゑ號	七貳五八番	五拾圓	丙ち號	五貳五九番
五拾圓	丙ち號	六八七八番	貳拾五圓	丙て號	貳七九番
貳拾五圓	丙て號	壹七八貳番	貳拾五圓	丙て號	貳三九三番
貳拾五圓	丙て號	貳六七八番	貳拾五圓	丙て號	三貳九八番
貳拾五圓	丙て號	三八五九番	貳拾五圓	丙ち號	八〇八貳番
拾　圓	丙あ號	三三貳八番	拾　圓	丙あ號	三三八八番
拾　圓	丙あ號	六貳壹三番	拾　圓	丙あ號	六貳壹四番
拾　圓	丙あ號	八壹壹七番	拾　圓	丙あ號	八壹壹八番
拾　圓	丙を號	四六五五番	拾　圓	丙を號	四六五六番
拾　圓	丙を號	八九貳五番			

右者竹口武兵衛記名ニシテ本廳撿印濟之分

百　圓	丙ゑ號	三四六六番	拾　圓	丙を號	八九五七番

右者山梨縣下保苅幸吉ヨリ竹口武兵衛買受本廳撿印未濟之分

前書之證書盜難ニ罹リ候旨本年乙第九拾四號ヲ以テ及告示置候處今般發見候條此旨告示候事

明治十六年十月一日　東京府知事芳川顯正

○伺指令

○文部省

愛媛縣ヨリ學事諸則ノ內改正ノ儀ニ付伺

本縣諸則ノ內戶長學務委員關係之廉明治十四年十一月乙第五拾四號內務文部兩卿御達及十五年御省第拾貳號御達ノ趣ニ據レハ町村會ニ係ル件ハ戶長ニ於テハ專ラ會議評決上ヨリ先之レカ指揮ヲ乞ヒ學務委員ハ又事業實施上ヨリ之カ許可ヲ乞フ儀ト被存候處便法ヲ以テ左ノ如ク規則ヲ改正シ戶長學務委員連署一ハ指揮ヲ乞ヒ一ハ認可ヲ乞フノ意ヲ合セ經伺候樣致度此段相伺候也

明治十六年五月十九日

學務委員薦擧規則

第一條　但書ヲ左ノ如ク改ム

但其人員ノ多寡及給料旅費職務取扱諸費等ハ學務委員戶長協議ノ上戶長ニ於テ學區內ノ町村會（聯合町村ノ學區ハ聯合町村會分割町村ノ學區ハ學區會）ニ付シ戶長學務委員連署郡長ヲ經テ縣令ニ經伺シ然ル上之ヲ學區內ニ告知スヘシ

町村立私立學校設置廢止規則

町村立ノ部

第三條　（學校維持ノ費ニ不足ナキ者ハ）ノ下ヲ左ノ如ク改ム

學務委員戶長協議ノ上戶長ニ於テ之ヲ町村會（聯合町村ノ學區ハ聯合町村會分割町村ノ學區ハ學區會以下倣之）ニ付シ戶長學務委員連署其事由ヲ具シ郡長ヲ經テ縣令ノ裁定ヲ乞フコトヲ得ヘシ

第四條　左ノ如ク改ム

但第一項ヨリ第十二項マテ故ノ如シ以下之ニ倣フ

町村立學校ヲ創置セントスルトキハ學務委員戶長協議ノ上戶長ニ於テ之ヲ町村會ニ附シ戶長學務委員連署左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經テ縣令ニ經伺スヘシ

第六條　（縣令ノ認可ヲ乞フヘク）ヲ（縣令ニ經伺シ）ト改ム

第七條　左ノ如ク改ム

町村立學校ヲ廢止セントスルトキハ學務委員戶長協議ノ上戶長ニ於テ町村會ニ付シ戶長學務委員連署左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經テ縣令ニ經伺スヘシ

第十條　（縣令ノ認可ヲ乞フヘシ）ヲ（縣令ニ經伺スヘシ）ト改ム

私立之部

第十五條　私立小學校ヲ町村立小學校ニ代用セントスルトキハ學務委員戶長協議ノ上學務委員ヨリ其校主ニ示談シ戶長ニ於テ町村會ニ付シ第一章第四條ニ準シ縣令ニ經伺スヘシ

附錄書式町村立私立學校創置伺ノ內ヲ左ノ如ク改ム

右之通學校創置之儀町村會ニ於テ評決候條認可之上實施仕度此段相伺候也（私立學校ハ右之通學校創置仕度云々ト記スヘシ）

年月日

何郡何町村學務委員

姓　　名　印

（町村立小學校ハ町村ノ上ヘ學區番號ヲ添ユヘシ以下倣之）

何郡何町村戶長

姓　　名　印

（私立學校ハ其校主ノ身分姓名ヲ記スヘシ但戶長學務委員連署ス）

縣令宛

右撤町村聯合ヲ以テ設置スルトキハ各町村ノ戶長學務委員一同連署ス以下倣之

同書式合併伺之內ヲ左ノ如ク改ム

右ハ何々ノ事故有之候ニ付從來ノ財產一切合併シ（合併セサルモノアレハ其處分方ヲ別紙ニ具スヘシ）更ニ左ノ方法ヲ以テ合併設置ノ儀聯合町村會ニ於テ評決候條認可ノ上實施仕度此段相伺候也（私立學校ハ從來ノ財產云々ヲ削リ町村會云々ヲ雙方校主協議相整云々ト記スヘシ）

設置目的

云々

以下總テ創置伺書式ノ各項ニ同シ

年月日

何郡何町村學務委員

姓　　名　印

何郡何町村戶長

姓　　名　印

（私立學校ハ雙方校主ノ自分姓名ヲ記スヘシ以下倣之）

縣令宛

同書式分離設置伺ノ內左ノ如ク改ム

右ハ何町村何町村聯合ヲ以テ設置仕居候處何々ノ事故有之候ニ付從來ノ財產別紙方法ヲ以テ處分シ自今分離ノ儀聯合町村會ノ評決ヲ經更ニ設置方左之通當町村會ニ於テ評決候條認可之上實施仕度此段相伺候也（私立學校ハ町村聯合ヲ何誰ト結合ニ作リ從來ノ財產云々及町村會云々ヲ雙方協議ノ上自今分離更ニ云々ニ作ルヘシ）

設置目的

云々

以下總テ創置伺書式ノ各項ニ同シ

年月日

何郡何町村學務委員

姓　　名　印

何郡何町村戸長

姓　名　印

縣令宛

右分離創置伺ハ雙方ノ伺書ヲ連結シ必同時ニ差出スヘキ者トス

町村立私立幼稚園書籍館設置廢止規則

第一章

第一條　左ノ如ク改ム

町村立幼稚園若クハ書籍館ヲ創置セントスルトキハ學務委員戸長協議ノ上戸長ニ於テ町村會ニ付シ戸長學務委員連署左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經テ縣令ニ經伺スヘシ

第三條　（縣令ノ認可ヲ乞ヒ）ヲ（縣令ニ經伺シ）ト改ム

第四條　左ノ如ク改ム

町村立幼稚園若クハ書籍館ヲ廢止セントスルトキハ學務委員戸長協議ノ上戸長ニ於テ町村會ニ付シ戸長學務委員連署左ノ各項ヲ具シ郡長ヲ經テ縣令ニ經伺スヘシ

指令

書面伺之通

但町村立私立學校創置伺書式中私立學校ニ係ル但書戸長學務委員ヲシテ校主ト連署セシムルハ不允當ニ付奧書等ノ旨趣ニ訂正候上更ニ開申可致事

明治十六年六月七日

○司法省

前橋始審裁判所檢事ヨリ豫審終結處分ノ儀ニ付伺

脅迫姦淫ノ如キ被害者ノ告訴ヲ待テ論スヘキ罪其告訴ニ因リ檢事ノ請求シタル事件ハ假令豫審中被害者ノ棄權アルモ豫審判事ハ通常ノ規則ニ從ヒ仍終結ノ處分ヲ爲スヘキ筋ト相心得候得共意見反對ノ向モ有之ニ付此段相伺候也

但豫審判事ニ於テ未豫審ニ着手セサル內被害者ノ棄權アル場合ト雖モ檢事ノ請求ニ係ル事件ハ本文同樣處分スヘキ儀ト相心得可然ヤ添テ相伺候也

明治十六年九月十三日

指令

檢察官ノ起訴ヲ爲シタル後被害者棄權ヲ爲シタル時ハ豫審判事ニ於テ本案ノ取調ヲ要セス直チニ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キ者トス

明治十六年九月廿九日

○大審院判決

宣告

群馬縣上野國邑樂郡館林堅町平民

宇治川庄吉（明治十五年九月二十年八月）

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年九月二日栃木輕罪裁判所ニ於テ被告カ無代價ニテ飲食シタル所爲ニ對シ刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ

原檢察官ハ右判決ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ凡ソ旅亭ニ於テ飲食スル者ハ即時其代價ヲ交附スルヲ以テ一般ノ習慣ト爲ス故ニ飲食ノ代價ヲ拂ハスシテ逃走スル者ヲ以テ負債辨償ノ義務ヲ遁レタル者ト謂フヲ得サルヤ論ヲ俟タス又刑法第三百九十條ノ欺罔トハ其意義頗ル汎クシテ無實ノ希望ヲ生セシメ人ノ財物ヲ騙取スル所爲即チ被告事件ノ如キ無論之ヲ包含スル者ナリ然ルニ原裁判所カ被告ニ對シ**無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ失當ノ裁判ナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ玆ニ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ**

金錢ナクシテ**飲食**スル**者**ハ一概ニ詐欺取財ヲ以テ論シ難シト雖モ當初ヨリ詐欺ノ念慮ニ出テタルヿ明確ナルニ於テハ其罪ヲ問ハサルヲ得ス抑モ被告ハ金錢ナク旅亭ニ投宿シ妄ニ飲食シタル後其代價ヲ償フノ目的ナキヲ以テ名ヲ金策ニ托シテ外出シ即時還ルト僞リ其儘逃走シタル者ニテ詐欺ノ形跡顯然タルモノヽ如シト雖モ被告カ心情如何ヲ推究シ果シテ當初ヨリ無代價飲食スルノ念慮アリシヤ否ヤヲ判定スルハ原裁判所ノ特有スル權內ニ屬スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ被告ニ於テ故サラニ僞名ヲ用ヰ又ハ身分ヲ詐稱スル等詐欺ノ情狀ナキヲ以テ其罪ヲ不問ニ措クノ理由ト爲シ被告カ心情如何ニ論及セスシテ輙ク無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ事實ノ理由不備ニ係ル不法ノ裁判ニシテ法律適用ノ當否ヲ驗査スルニ由シナキモノトス因テ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

明治十六年九月二十七日

裁判長判事　鳥居斷三
專任判事　小村壽太郎
判事　伴　正臣
判事　薄井龍之
判事　園田　弘
書記　香田能與

○宮廷錄事

○豐受太神宮御料トシテ御馬一匹被牽進旨一昨日神宮司廳ヘ達セラレタリ

○官廳彙報

○去月廿八日アルベルト殿下ハ在日本獨乙國公使夫妻其ノ他隨行員數名ト共ニ東京大學四學部各教場等ヲ巡覽セラレタリ

○當時兵庫縣ヘ出張中ナル農商務大書記官岩山敬義、同權少書記官片山遠平ハ今一日大坂聯合共進會ヘ臨場スヘキ旨去月廿九日電報ヲ以テ達セラレタリ

○栃木縣令藤川爲親ハ伺濟ノ上兵庫縣神戸ニ於テ開設セル第二回製茶共進會及東海道筋各府縣勸業土木等ノ景況實視ノタメ去月廿八日屬官二名ヲ隨ヘテ縣地ヲ出發シタリ

○農商務權大書記官山高信離ハ去月廿九日九州諸縣聯合烟草、砂糖、麻苧、繭、生絲、織物、共進會審査長ヲ命セラレ農商務省准奏任御用掛池田謙藏ハ同日同會審査長ヲ免セラレ九州各縣下巡廻ハ是迄ノ通心得ヘキ旨達セラレタリ

○檢査官補伊地知季則外二名ハ函館、札幌、根室地方所在各廳ノ會計檢査了リ去月廿八日歸京シタリ

○三菱會社所有汽船名護屋丸檢査ノタメ農商務省管船局雇外國人エ、エフ、マグナフイー、ヂー、ラムセーノ二名及局員一名去月廿九日横濱港ヘ出張シタリ

○農商務省ニテハ本日ヨリ午前九時出頭午後三時退省ノヿニ定メタリ

○水路報告第一百四十五號

此ニ關係ノ圖誌ハ各其記事ノ前行ニ掲ケ照看記入ノ便ニ供ス

第三百四項（洋紀一千八百八十三年（八月）諸國各口巡工司告示第一百七十二號ニ基ツク）

英海軍省版海圖第二千六百七十八號ニ關係ス

第79号本文

支那　揚子江九江地方

雞角洋稱「ヘンポイント」竿燈ノ撤去

清國政府ハ嚮ニ本局水路報告第一百四號第二百二十六項（一千八百八十二年五月清國各口巡工司告示第一百四十八號譯）ヲ以テ告示シタル雞角竿燈ヲ今般撤去シタルヿヲ告示セリ

第三百五項（同上告示第一百七十三號）

本局出板海圖第二十二號寰瀛水路誌第三卷四百二十九丁四百三十八丁及英海軍省版海圖第一千七百六十七號ニ關係ス

支那　厦門地方

金門（クイモイ）島沙嘴ノ浮標

英海軍省近時出板海圖第一千七百六十七號ニ載スル所ノ金門島沙嘴ノ外端附近ニ漸長スル淺灘ノ南邊ニ於テ今般一浮標ヲ設置ス此浮標ハ赤色圓錐形ニシテ其徑六尺而シテ其上ニ黒色球形ノ籃帽ヲ置クモノナリ

船隻ハ該浮標ト金門島岸トノ間ヲ經行ス可カラス

右報告候也

明治十六年九月三十日　水路局長海軍少將柳楢悦

○正誤

○官報第七拾號達欄內農商務省第十號達廢牧場調雛形但書舊藩塀ノ項ノ下「及維新後ノ」五字ヲ脫ス

明治十六年十月一日　農商務書記官

○兵事

○孟春艦（海軍省報告）　孟春艦ハ去月廿八日馬關ヨリ兵庫港ヘ着シタリ

○筑紫艦附屬品實地取調（海軍省報告）　海軍艦船營需用品取調委員海軍少佐國友次郎、同大機關士黒原和友、同小川直一、雇英國人壹名ハ筑紫艦附屬品並ニ需用品等實地取調ノタメ本月廿四日横須賀ヘ出張シ同廿八日歸京シタリ

○農工商事項

○風害（農商務省報告）　去月十二日發鹿兒島縣ノ報告ニ云ク同縣下ハ去月九日夕刻ヨリ正東ノ風起リ翌日午後七時ニ至リ稍〻勢力ヲ加ヘ九時頃ヨリ暴風トナリ十一日正午ヨリ二時頃マテ最甚シク午後二時頃風向東南ニ轉シ風力稍減セシニ十二日午前二時頃再ヒ風向正東ニ復シ風力烈シカリシモ午前九時頃ニ至リテ和キタリ此ノ暴風ヲ本年八月十七日ノ颶風ニ比スレハ勢力遙ニ劣リ鹿兒島ニ於テハ人畜死傷家屋破壞等ノ害アラサリシカトモ農產物ハ中稻開花ノ期節ナルヲ以テ其ノ損害尠カラス水田凡二分許粟作一分以內ノ損害ト認ム他各地ノ景況ハ未詳ナラサレ𪜈概ネ大異ナカルヘシ

○山林火災（農商務省報告）　攝津國有馬郡加茂村字加茂山一等官林ニ於テ去月十一日朝俄然發火（原因不詳）シ段別凡拾壹町步ニ延燒シ松貳百三拾九本小柴凡六百八拾馱ヲ燒失セリ然レ𪜈幸ニシテ最良ノ樹木所在ノ地ニ延燒セサリシ旨兵庫山林事務所ヨリ山林局ヘ屆出テタリ

○縁飾（レース）（東京府報告）　東京府縁飾製造所ニ於テ製出シタル縁飾數品ヲ本年五月和蘭國安特提府ニ開設セル萬國博覽會ヘ出シタルニ會場ニ於テ衆庶ニ稱賛セラレ頗ル聲價ヲ得タリトテ出品受托人七寶會社社員ヨリ其ノ景況ヲ報道スル左ノ如シ

一弊社ヘ委托セラレタル「レース」ハ海上無滯到着速ニ飾箱ヲ製シ陳列セシニ大ニ高評ヲ得タリ殊ニ去ル廿日白耳義內務卿來觀セラレ日本陳列所巡廻ノ節我カ事務長官ニ向ヒテ其ノ細工ノ宜シキヲ賞セラレタリ全体「レース」佛語「ダンテール」ノ製造ハ白耳義ノ名產ニシテ佛國ト雖一步ヲ讓ル所ナレハ他邦ニ於テハ決シテ白耳義ト競爭スルノ意ナシ故ニ萬國大博覽會ニモ之ヲ出品スルハ獨リ白耳義ニ止ルナリ然ルニ更ニ今日突然日本ヨリ美麗ナル「レース」ヲ出品セシユヱ見物人ハ白耳義製ノモノヲ日本製造トシテ列品セシモノヽ如ク思フモノ多シ故ニ其ノ委細ヲ認メシ額ヲ掛ケ日本製タルヿヲ明ニセリ今回モ白耳義ノ外「レース」ヲ出シタルヲ見ス而シテ「レース」ハ上等社會ニハ必需ノ品ナレハ追〻入費ヲ省キ製造セハ必國益ナルヘシ

一東京府ノ「レース」ハ實ニ模樣モ日本風ニシテ大ニ宜シ是白耳義內務卿ノ感服セラレシ所ナレハ以來洋風ニ倣ハサルヿ可ナラン

一第二號「レース」婦人用「ハンケチ」原價六拾壹圓五拾錢ノ分壹枚ハ去ル九日蘭貨壹百八拾佛ニテ賣却ノ約定セリ此ノ代日本紙幣壹百七圓餘（壹圓四十錢替）ニ當ル

一「レース」陳列箱ノ傍ニハ婦人常ニ集合シ其ノ互ニ語ルヲ聞クニ前ニモ陳スル如ク白耳義製ナリト云フモアリ佛蘭西製ナリト云フモアリ又ハ日本製ト云フモアリ遂ニ拙者ニ尋問スルニ至リタレハ日本出品中ニハ決シテ外國製ノモノ壹品モナシト答ヘシニ一同驚キ去レリ

右報告中賣却約定濟ノ「レース」第二號「ハンケチ」ハ楓形ノ模樣ニシテ教場生徒助教心得麴町區飯田町三丁目三番地澤ヨシノ製造ニ係レリ今其ノ價額ノ割合ヲ揭クルニ製造ニ費シタル日子ハ凡百二十日間原質「リンネル」糸及針等ノ原價ハ代金壹圓五拾錢位ニ當ル故ニ物品ノ價直ハ全ク其ノ勞力ニ在リト云フヘシ抑府下ニ「レース」製造所ヲ創設シタルハ明治十三年七月ニシテ横濱在留英國婦人ヲ聘シテ教師トシ女生徒ヲ募リ業ヲ授ケシメ爾後生徒ノ技藝愈〻進ミ十四年勸業博覽會ニ出品シタル「レース」ハ進步三等ノ賞牌ヲ得タリ右ニ記スル如ク創始已降僅ニ數年ヲ出テスシテ此ノ結果ヲ見ルニ至ル將來最モ望ヲ屬スヘキ事業ト云フヘシ

○紡績所營業實況（農商務省報告）　本年七八兩月各地紡績所營業一覽表ヲ左ニ揭ク但シ愛知、三重、桑原ノ三箇所ハ減水ニ付休業中ナレハ之ヲ記セス又表中數字二行アル分ハ前行七月分後行八月分ナリ其ノ廣島第一第二ノ兩所ノミ一行ニセシハ七月分ノミニシテ八月分ハ報告未着セサルニ由ル

明治十六年七八兩月各地紡績所營業實況一覽表

紡績所名	錘數	營業日數	就業時間	現役男工	現役女工	繰綿需用高	管糸番號	管糸出來高	落綿出來高	屑糸出來高	散失綿高	石炭消費高	油消費高	平均一人男工給	平均一人女工給	紡績消費高	木綿綱消費高	茶皮消費高代
岡山	二〇〇〇	二八	一一四二分	六〇四八人	一二七三〇人	一四二五三七〇斤	一二番	二八七四五〇斤	一〇五二一五斤	四六九〇斤		六三六〇六斤	八〇〇合	二一四厘	八五厘	一四六七円	一二〇円	一四七九厘
	二〇〇〇	一三	一二〇〇	二六七六	五八八三	五五三二七〇	一三番	四八八五七〇	四四八六〇	二一五〇		二九三七〇	五〇〇	二一〇	八三	九四〇	九五〇	二九五〇
玉島	二〇〇〇	二六	一三〇〇	八八六七	一三七九五	一九二六七五〇	一四番	一七一五七〇〇	五六二五〇	一一八〇		七七〇〇〇	一五〇五	二一五	九三	三六三七	七〇〇	五二八〇
	二〇〇〇	二七	一三〇〇	八八五四	一三八三〇	一八八四五一〇	一八號	一六二四五〇〇	五六三九〇	一三六三〇		七一六〇〇	一五〇〇	二一〇	九一	三七〇七	三三五〇	六二五〇

第79号本文

澁谷	三〇〇〇 三〇〇〇	二六 二八	一三〇〇 一四五〇	七〇八五 七一八五	一二四九〇 一五八一〇	二〇九五〇〇〇 二四五八四七〇	一四番 一四番	一七二二九七四 二〇五一四〇八	二五一三〇〇 三二〇二四〇	一二九五〇 一四〇〇〇		九一〇〇〇 一二八〇〇〇	一八〇〇 二四〇〇	二九〇 二四〇	一〇八 九八	四〇〇〇 四〇〇〇	六〇〇〇 六〇〇〇	二三五〇〇 二〇〇〇〇
下村	二〇〇〇 二〇〇〇	一八 二三	一二三三 一二〇三	三三五〇 五四六七	六五七九 一〇八四二	七〇二三八〇 八八三一八二		五五〇五四四 七八一八〇〇	六五三九四 九〇三六五	三三四五 六八二六		二八八〇〇 三八六〇〇	八六一 一四五四	一八六 一七六	九二 八六	六〇一 二〇二〇	六三〇 九二〇	二六八〇 一五六六〇
市川	二〇〇〇 二〇〇〇	三〇 二八	一一〇〇 一一〇〇	二八五五 二八二七	七九七五 七七六三	九三八五二八 九二〇八〇七	一四號 一五號 一四號 一五號	八一〇六〇〇 七九八三四〇	七四一九六 七〇九〇〇	一一五五六 九〇八七	四二一七六 四二四八〇		一二四〇 一二〇〇	二七八 二七七	一〇三 八六	一〇六二 一三一一	二二六〇 二七六〇	九六〇〇 一二八〇〇
堺川崎	二〇〇〇 一〇〇〇	二七 二七	一四〇〇 一三二〇	八一〇〇 八一〇〇	一四八五〇 一四八五〇	一八〇九〇六〇 二〇〇四七六〇	一四番	一五三七七一〇 一七三〇八六〇	一八七七五〇 一八八二五〇	七九五〇 一〇一八〇	七五六五〇 七五四七〇	六六六〇〇 七一四四〇	一七〇〇 一八〇〇	三一七 三一三	九九 九六	四七六〇 四五〇〇	七八〇〇 三二〇〇	一四四八〇 一九九一〇
廣島第一	二〇〇〇	二八	四三〇	四二七〇	七一八〇	三三八三七五	一七號	二七七二一五	三八六七〇	一四五三三	一〇五〇〇		五八九	一七一	八二	一三一〇	一八五〇	四二〇〇
廣島第二	三〇〇〇	二六	一一〇	七〇二〇	七八〇〇	四〇一七六〇		三三一一三〇	五四二七〇	九四〇	一五八〇五		一二五三	一六五		一二〇〇	八〇〇	二四〇〇

○外報

○伊國震災餘聞（八月五日刊行北獨逸普通新聞）　伊多利國皇帝ハ今度ノ震災ニ就キ勅ヲ下シテ那不勒府ニ中央理事官ヲ置キ府知事ヲ其ノ長トナシ以テイスシア島罹災者ノ爲ニ諸方ヨリ送致セル惠施物ヲ受領シテ之ヲ分配スルノ事務ヲ掌ラシメタリ此ノ理事官ハ兼ネテ又震災ノタメニ破損セシ街路ヲ修理スヘキ便法ヲ論究スルノ任ヲ負ヘリ

英國皇帝ハ伊多利國皇帝ニ慰問ノ電信ヲ送ラレ深クイスシア島罹災ノ人民ヲ哀憐スルノ意ヲ表セラレタリ伊國皇帝ハ之ニ答謝シ且兩國ノ交際益々親密ニシテ舊ニ異ナラサルヿヲ証スト云々ノ語ヲ添ヘラレタリ

○同（八月六日刊行北獨逸普通新聞）　今回震災ノ爲ニ設ケラレタル中央理事官ノ報告ニ據レハ本日マテ申込アリタル救恤金ノ總額ハ一百五拾萬法ニ達セリト云フ理事官長ハ日々病院ヲ巡視シテ患者ヲ慰問ス府内破損ノ部ハ漸次修理セルヲ以テ府中ノ空氣大ニ改良セリ假屋新築ノ工事モ亦大ニ進歩シ其ノ落成近キニアル可シ今日ニ至ルマテ埋葬ヲ終ヘタル屍ノ數ハ七百六拾名ナリ

○同（八月七日刊行北獨逸普通新聞）　佛國大統領ハイスシヤ島ノ震災ヲ聞クヤ直ニ電信ヲ以テ伊國皇帝ヲ慰問シ且伊國駐紮佛國公使ヲ以テ罹災人民ノ爲ニ壹千法ヲ贈與シタリ又宰相フエリーハ内閣諸卿ノ義捐金合計貳千貳百法ヲ贈與セリ

○東京事件ニ關スル佛國元老院議員ノ疑問（七月二十八日刊行佛國メモリヤル、ヂプロマチック抄譯）　七月二十一日ノ元老院會議ニ於テ議官ブログリ氏ハ東京ノ戰ニ係ル事項ニ關シ外務卿ニ左ノ如キ疑問ヲ爲シタリ

諸君、余ハ暫時ノ間會議ノ退散ヲ妨ケ外務卿ニ對シ簡短ナル疑問ヲ爲サントス余ノ疑問ハ即現今我カ國ノ安南ニ於ケル交渉ハ如何ナル狀態ナル乎、我カ國ト安南トノ開戰ハ公然表告シタルモノナル乎否ト云フニ在リ

余ハ此ノ疑問ヲ以テ東洋ニ於ケル現今ノ兵略及政略ノ說明ヲ政府ニ要求スルニ非ス又外務卿ノ嘗テ兩議院ニ於テ爲シタル說明ハ甚不充分ニシテ余ノ腦中ニ數多ノ疑惑ト憂愁トヲ留メタレ𪜈余ハ外務卿ハ充分ニ說明シ得ルノ權ヲ有スルヤ否ヤヲ知ラサルカ故ニ敢テ詳細ノ說明ヲ求ムルニ非ス且余ハ詳細ノ說明ヲ求メテ政府ノ秘事ヲ穿鑿スルナク一切ノ責任ヲ政府ニ皈スルヲ以テ得策ナリト信スルナリ

故ニ余ハ外務卿ニ向ヒテ其ノ嘗テ民選議院ニ於テ演說シタル說明ノ眞意ヲ明ニセンヿヲ要求スルニ止ルノミ蓋此ノ說明ハ内外ノ新聞紙上ニ種々ノ注解ヲ生セシメタルモノニシテ多少世間ニ影響ヲ及ホシタルヤ疑ヲ容レス

新聞紙ノ報道スル所ニ據レハ外務卿ハ民選議院ニ於テ東京征討ノ已ムヘカラサル事情ヲ述ヘ而ル后安南王ヲシテ自ラ其ノ國亂ヲ鎭定セシムル爲ニ使節ヲ發遣シテ順化府ニ談判ヲ開カシメ且此ノ方法ヲ以テ千八百七十四年ノ佛安條約ヲ實行セシメントシタルニ此使節ノ上途ニ先チテ安南ノ擧止ハ其ノ局面ヲ一變シ順化政府ハ我カ佛國ニ敵對スルノ點ニ向ヒ遂ニ平和ノ手段ヲ以テ相交ルヿ能ハサルニ至レリ故ニ使節ノ禮ヲ以テ相見ルノ方法ヲ棄テヽ他ノ手段ヲ取リタル旨」ヲ開說セラレタリ而シテ右外務卿ノ說明アルニ際シテ一代議士起立シテ然ラハ安南ト戰ヲ開クノ謂ナル乎ト問ヒシニ外務卿ハ「然リ固ヨリ戰ヲ開クノ謂ナリ」ト斷言セラレタリト

余カ外務卿ニ向ヒテ今日答辨ヲ請求スルモノハ他ナシ抑々開戰ト云ヘル語ハ我カ憲法上及歐洲交際上ノ用語ニシテ其ノ意義自ラ一定セルモノナリ外務卿ノ此ノ語ヲ用ヒタルハ右ノ用語ト同一ノ意義ナル乎是其ノ說ヲ聽カント欲スル所ナリ

諸君ハ現ニ我カ憲法ニ於テ此ノ語ヲ用ヒタルハ何ノ箇條ナルカヲ知ラルヽナラン千八百七十五年七月十八日ノ憲法第九條ニ於テ左ノ明文アリ曰ク「共和大統領ハ兩議院ノ承諾ナキニ開戰ヲ表告スルヿヲ得ス」

余輩カ東京征討費ノ補充額ヲ議シタル時ニ方リテハ開戰ノ事ハ未確定セスシテ唯使節ヲ遣シテ順化政府ト商議スルノ方法ヲ擧行スルニ過キサリキ而シテ其ノ舊條約ヲ實施シ或ハ訂正スルタメ使節ノ彼ノ地ニ赴キタルハ實ニ征討ノ端緒ニシテ當時ノ形況ハ殆ト開戰ノ勢ナカリキ

然ラハ何ノ時ニ於テ右形勢ハ其ノ局面ヲ一變シタル乎何ノ時ニ於テ議院ハ憲法ニ在ルカ如キノ特權ヲ大統領ニ與ヘタル乎此ノ問題ハ既ニ民選議院ニ於テ議員デラフオトス氏ノ提起シタル所ナリ然リト雖外務卿ハ右問題ニ對シテ充分ノ答辨ヲ與ヘラレサリキ余ハ右答辨ノ今日甚必要ナルヲ信ス

抑々何ノ日ニ於テ議院ハ宣戰ノ權ヲ大統領ニ與ヘタル乎ノ問題ハ議院ヨリ之ヲ觀ルトキハ甚緊要ニシテ忽ニスヘカラサルヿナリ且勉テ此等ノ憲法上ノ特權ヲ維持スルハ殊ニ共和黨ノ精神ナリ蓋此ノ箇條ハ眞成ニ共和ノ精神ヲ有セル箇條ニシテ宣戰媾和權ヲ行政ノ權ヨリ分離シテ之ヲ國會ノ掌有ニ皈シタルハ即共和政府ノ共和政府タル所以ナリ

然レ𪜈余ノ此ノ疑問ヲ起シタルハ啻ニ議院ヨリ之ヲ觀察シタルノミナラス余ノ最感觸シタル所ハ實ニ外交上ノ觀察ニ存スルナリ余ハ前段ニ於テ既ニ外務卿ニ向ヒテ其ノ開戰ト云ヘル用語ノ意義ハ啻ニ憲法上ニ用フル意義ト同一ナルノミナラス又外交上ニ用フル意義ト同一ナルヤ否ヲ質問セリ

夫國際法ニ於テ開戰ト云ヘル事ハ頗ル嚴正ノ定義ヲ與ヘラレタルモノニシテ其ノ結局ハ開戰國双方ニ向ヒテ或ハ權利ヲ與ヘ或ハ義

第79号　本文

務ヲ命スルモノナリ當ニ開戰國双方ノミナラス局外中立國ト雖之ト貿易上又ハ航海上若クハ隣交上ノ關係ヲ有スル者ハ同シク多少ノ影響ヲ受クルモノナリ而シテ開戰國ハ中立國ヲシテ其ノ中立ノ規程ヲ固守セシムル爲ニ甚廣キ諸權理ヲ有スルモノナリ

然レ𪜈此等ノ權利ヲ有シテ適當ニ之ヲ實用スルニハ必ス正當ノ方法ヲ用ヒサルヘカラス所謂正當ノ方法トハ即中立國ヲシテ局外ニ在ラシムルタメ之ニ明白公正ナル表告書ヲ送ルコ是ナリ然ラハ開戰ニ係ル政府ノ表告ハ即中立國ニ對シ國際法ニ許ス所ノ諸權テ施用スルニ於テ必要缺クヘカラサルノ件トス是固ヨリ外務卿ノ知悉セル所ナリ此ノ觀察ハ殊ニ海戰ニ於テ必要ナルモノニシテ中立國及開戰國ノ權利義務ヲ嚴正ニ定ムルコモ亦海戰ニ最必要ナリ

夫安南國ハ六十里ノ海岸ヲ有スルノ土地ナルカ故ニ之ト開戰スルニハ必ス海軍ヲ用ヒサルヘカラス是ノ故ニ今日ノ事ハ既ニ開戰ノ宣告ヲ爲シ以テ開戰ノ諸權利ヲ得タルモノナルヤ否ヲ知ルハ亦已ムヘカラサルノ場合ナリトス

抑〻此ノ諸權利ハ諸君ノ知ラルヽ如ク古ヨリ數多ノ異議ヲ生シ歐洲諸國ノ間ニ於テ屢〻紛議ノ機ヲ與フルモノナリ然レ𪜈世人ノ知ルカ如ク右權利ノ内ニハ既ニ一定ノ公認ヲ得テ紛議ヲ容レサル者アリ即「開戰國カ中立國ノ船舶ヲ撿査スルノ權利」ノ如キハ何人ト雖之ヲ非難スヘカラサルモノナリ又「敵國ノ港ヲ封鎖スルノ」權利「中立國ノ船舶ニシテ此ノ封港線ニ侵入スルモノヲ兵力ニテ防禦スルノ權利」ノ如キハ既ニ宇内ノ公認ヲ經テ確定セラレタルモノナリ然レ𪜈此ノ諸權利ハ中立國ニ向ヒテ開戰ヲ表告シタル上ニ非サレハ實行スルヲ得ス蓋開戰ノ宣告ナケレハ中立國ハ知ラサルノ故ヲ口實トシテ敢テ此等ノ權利ノ實行ヲ許サヽルヘシ

外務卿カ民選議院ニ於テ公言セラレタル開戰ハ即右ノ權利ヲ有スルノ地位ニ在ルカ

露國、英國、獨國、及清國等ノ中立國ニ向ヒテ其ノ國旗ヲ掲ケタル船舶ノ安南國海岸ニ入ルモノヲ撿査若シクハ拘留スルコヲ通知シタルカ

若シ眞ニ開戰ヲナス𪜈ハ此等ノ事ハ皆必要欠クヘカラサルモノナリ然レ𪜈此等ノ事ハ開戰表告ノ後ニ非サレハナス能ハス而シテ開戰ノ表告ハ國會ノ認可ヲ經タル後ニ非サレハナス能ハサルナリ是即余カ外交上及憲法上ノ兩問題ヲ起シテ外務卿ニ兩個ノ答辨ヲ煩ス所以ナリ云々

右ノ疑問ニ對シテ外務卿シヤルメルラクールハ左ノ答辨ヲナシタリ

諸君、ブログリ君ハ既ニ書ヲ余ニ與ヘテ疑問ヲナサントスルノ意ヲ開示シ且此ノ書中ニ於テ同君ハ其ノ疑問ニ對シ簡短ナル答辨ヲ爲サンコヲ望マレタリ而シテ今日ノ議場ニ演説セラルヽ所ヲ見ルニ驗究ノ説ヲ以テ其ノ疑問ヲ敷衍シ事實ノ疑問ヲ爲シタル後ニ於テ尙世上ニ於テ一難問題トナレル國際法ノ觀點ヲ擧ケ敵港封鎖ノ事及海上中立ノ事ニ係ル疑問ヲ臚列スルニ至レリ抑〻是等ノ事ハ全ク理論上ノ驗究ニ屬シテ所謂事實ノ問題ニ關係スル所ナキカ故ニ余ハブログリ君ノ意ヲ滿スニ足ルヘキ答辨ヲナス能ハサルナリ

ブログリ君ハ自ラ東京ト我カ佛國トノ間ニ於ケル現狀ヲ知ラスト稱セリ然レ𪜈其ノ演述スル所ヲ見ルニ甚細密ニ亘リ之ヲ知ラサル者ニハ非サルカ如シ且余カ嘗テ民選議院ニ與ヘタル説明ノ一部分ヲ暗記セルヲ以テ見レハ同君ハ既ニ余ノ如何ナル方法ニ依リテ今日東京ヲ處分スル乎ヲ知了セルモノヽ如シ唯余ノ説明ハ同君ノ爲ニ明瞭ナラス且充分ナラサルノミ

ブログリ君ノ意ハ余カ民選議院ニ於テ爲シタル説明ヲ更ニ元老院ニ於テ爲スヘシト云フニ在ルカ如シ而シテ此ノ説明ノ再説ヲ必要トスルノ意ハ蓋國家一般ノ爲ニスルニアリテ他ニアラサルヘシ何トナレハ國家ノ公益ニ係ル事ノ外ハ同君ノ爲ニ皆無用ノ事ナルヘケレハナリ余ハ本院ニ於テ該説明ヲ再説スルノ難事ニ非サルヲ覺エ且今回ハ一層明瞭ノ方法ヲ以テ其ノ疑問ノ一二ニ答フルコヲ得ヘキナリ

抑〻ブログリ君其ノ人ノ如キ能辨者ニ對シテ説話センニハ凡言語ヲ發スルニ方リテ一層其ノ意義ヲ嚴格ニ定ムルコ固ヨリ諸君ノ承允スル所ナルヘク且余ノ必要ト思惟スル所ナリ依テ余ハ彼ノ疑問ノ主要部ニ向ヒテ左ノ如ク答辨セントス曰ク「否我カ國ハ安南ト未表告シタル戰ヲ開キタルコアラス故ニ余ハ今日ニ至ルマテ敵港封鎖ノ事及海上中立ノ事ニ着手シタルコアラス若シ時機ノ已ムヘカラサルニ至ラハ余ハ直ニ封港ノ令ヲ傳フヘシ封港ナル者ハ必シモ表告シタル開戰ニ於テ之ヲ施行スヘキモノニ非ス又封港ナル者ハ常ニ開戰表告ヲ含蓄スル者ニ非ス若シ他國ノ人民ニシテ我カ東京處分ノ事ニ防障ヲ試ミントスル者アリテ兵器ヲ與ヘ若クハ援兵ヲ送ルノ證跡ヲ見ル𪜈ハ余ハ豫防ノ注意ヲ以テ國際法上ノ規程ニ從ヒ交戰上ノ必要ニ依リ適當ノ方法ヲ取ルニ躊躇セサルヘシ」ト

然レ𪜈若シ只右ノ如キ單簡ナル答辨ニ止ル𪜈ハブログリ君ノ滿足セラレサルヲ恐ル故ニ余ハ議員諸君ニ向ヒテ更ニ簡短ナル説明ヲ爲スノ承允ヲ請ハントス

安南政府ハ嘗テ外國ニ向ヒテ開戰表告ヲ爲シタルコナシ又其ノ國内ニ於テ開戰表告ニ係ルノ布令ヲ發シタルコナシ余ハブログリ君ニ猶注意ヲ請ハント欲スルコアリ即我等ノ今日從事スル所ノ國ハ如何ナル國ナルヤヲ注意スルコ是ナリ安南若クハ支那ノ如キ國ニ對シテハ豫メ和戰ノ決ヲ見ル事ノ甚容易ナラサルハ事情ノ然ラシムル所ナリトス

此等ノ國人ハ西洋諸國人ノ如ク國際法ヲ知ルコナク又之ヲ嚴重ニ遵守スルコナキノ國人ナリ故ニ余輩ハ其ノ國ノ一部ニ於テ戰爭ヲ開ク𪜈他ノ諸部ニ在リテ平和ヲ持スルハ固ヨリ容易ナル事ナリトス千八百六十年支那ニ於ケル事跡ヲ追懷スレハ是等ノ事ヲ證スルニ充分ナラン

現今ノ事ハ既ニ干戈ヲ動シタリト雖安南王ハ開戰表告ヲ爲シタルコナキノミナラス我カ國ト安南トノ條約ニ對シテ固ク之ヲ保持シ及尊敬スルノ意ヲ表セリ若シ右ノ條約ヲ犯シタルコアリトスレハ是安南王ノ罪ニ非スシテ反リテ我カ佛國官吏ノ不注意ヨリ生シタル過ナリト言ハサルヘカラス

曩ニ我カ辨理公使カ時期至レリト判決シテ順化府ヲ去ラントスルニ方リ安南政府ハ之ヲ留メンコヲ謀リ且公使ノ去ルハ交際破絶ノ本ナランコヲ恐レ（蓋安南政府ハ我カ公使ヲ以テ人質ト見做シタルナラン）急ニ二人ノ貴官ヲ柴棍ニ遣シテ公使出發ノ理由ヲ探ラシメタリ而シテ此ノ出發ハ更ニ安佛交際ノ破絶ニ係ル者ニ非サルコヲ聞キ且新ニ特派公使ノ順化府ニ來ルヘキコヲ聞キ始メテ安堵ノ色ヲ顯シタリト云フ

余輩ハ數日前ニ於テ安南國ノ外務卿チユオン、バク氏ヨリ交趾知事ニ贈レル書簡ヲ得タリ此ノ人ハ安南國ニ於テ強大ノ權勢アルモノニシテ其ノ權勢殆ト國王ノ上ニ駕スト云フ其ノ書簡ニ依レハ我カ佛國ニ對シテ頻ニ罪ヲ謝シ或ハ哀訴シ或ハ尊敬ス其ノ文章ノ意義ハ明瞭ヲ缺ク所アルモ要スルニ條約ヲ遵守スルノ意ヲ表セルモノ

第79号　本文

第79号　本文

ナリ蓋東洋ノ外交書ハ此ノ如クナルモ亦怪ムニ足ラス而シテ此ノ書簡ノ發シタル日ヲ見ルニ即我カ指令官リウヰエールノ戰死シタルニ先ツヿ數日ナルノミ然ラハ其ノ國ノ一部ニ於テ戰爭アルニモ拘ラス其ノ政府ハ反テ平和ヲ望ミタルモノト云ハサルヘカラス

諸君右ノ事實ニ就キテ之ヲ見ハ安南國ノ開戰表告ヲ爲シタルヿナキヤ明ナルヘシ余ハ支那諸新聞ニ於テ安南政府カ使ヲ清國政府ニ遣シ其ノ援兵ノ派出ヲ促セリト云フヿアルヲ一見シタリ然レ𪜈余ハ此等ノ事ニ係ル報道ヲ得タルヿナシ且數多ノ通報アリト雖一言ノ此ニ關スルモノアルヲ見ス余ハ諸君ト共ニ去ル六月中ノ支那新聞ニ於テ安南王カ清帝ニ贈リタル書簡ヲ讀ミタリ此ノ書簡ニハ稍我佛國ヲ敵視スルモノヽ如キ意義アリ然レ𪜈此恐ラクハ外邦記者ノ手ニ成ルモノニシテ信據ト爲スヿヲ得サルナリ又東京ノ役ニ當リテ敵兵ノ中ニ支那人安南人ノ混入スルモノアリト雖其ノ混入ハ果シテ順化政府ノ命ニ出テタルノ證アルヲ見サルナリ

以上ノ事實ヲ見レハ安南國ニ於テ開戰表告ニ類似セルモノハ未之アラス且開戰表告ト誤認スヘキ者モ亦未之ヲ見サルナリ

我カ國ニ於テモ亦然リ東京事件ヲ以テ安南政府ニ公報シタルヿハ既ニ久シ而シテ未開戰表告ヲ爲スノ必要ヲ有セサルナリ余輩ハ安南政府ニ向ヒテ東京事件ニ着手スルヿヲ報告シ條約ニ從ヒテ我カ國權ヲ施行スル爲ニ正當ノ方法ヲ用フルヿヲ報告シタリ又安南政府ニ向ヒテハノイ及ハイホンニ在ル我カ兵營ノ薄弱ナルニ因リテ常ニ清安兩國ノ匪徒ノ暴侵ニ堪ヘサルヿヲ報告シタリ

東京ニ事業ヲ立ツル爲ニ余輩ハ去ル五月十九日ヨリ他ノ方法ヲ用ヒタリ是皆諸君ノ知了スル所ナレハ今復此ニ之ヲ贅言スルヲ要セス抑〻二ケ月前ヨリ二三ノ事變ニ遭逅シタリト雖又安南政府ヲシテ條約ヲ實施セシムルヿ頗ル困難ナルニ至レリト雖又五日以來局面ノ一變シタルアリト雖余輩ハ去ル四月ニ於テ有シタル冀望ヲ固守スルニ止リ決シテ安南ニ向ヒテ開戰ヲ表告セサルナリ

ブログリ君ハ右ノ答辯ニ因リテ滿足セラレタルナラハ余ハ直ニ演壇ヲ下ルヲ得ヘシト雖尚二三言ヲ吐露セサレハ諸君ニ對シ及國家ニ對シテ粗漏ノ譏ヲ免レサルヘシ

余輩ハ未安南ニ向ヒテ開戰ヲ表告シタルヿアラス余輩ハ安南國ヲ滅スノ意アルニ非ス又之カ社稷ヲ覆スノ意アルニ非ス唯變亂ヲ鎭定シ條約上ノ權利ヲ保持スルニ在ルノミ安南モ亦敢テ條約ノ執行ヲ拒絕スルモノニ非サルヤ明白ナリ然レ𪜈安南及支那ノ擧動ハ其ノ外觀ニ於テ吾人ヲシテ實ニ安南ト開戰セルモノヽ如キ思ヲナサシム諸君及余輩ノ誤解ヲ來スハ全ク此ノ奇怪ナル國風ノ然ラシムル所ナリ實地ニ就キテ之ヲ視察スレハ更ニ表告シタル開戰ナル者アルヿヲ見サルヘシ然レ𪜈余ハ後日ノ爲ニ尚茲ニ陳述セント欲スルモノアリ

彼ノ支那安南ノ匪徒ナル黃黑旗隊ハ我カ國民ニ抗敵スルモノナリ而シテ此ノ匪徒等ハ全ク安南政府ヨリ軍費ヲ給セラルヽモノナリト云フ而シテ此ノ事タルヤ余輩ハ順化政府ニ就キテ其ノ眞僞ノ證跡ヲ實見スル能ハスト雖亦決シテ其ノ事實ナシト云フ能ハサルナリ又彼ノソンタイ、バクニヒユ、ナンデンノ諸地方人民ハ曩ニ我カ兵ニ向ヒテ抗敵ヲ企テタリ此ノ地方ノ知事等ハ安南政府ノ直接ナル命令ニ從ハサルモノナリト雖其ノ政府ノ主旨ニ至リテハ必皆之ヲ遵奉シタルモノナリト云ハサルヲ得ス

諸君、凡以上ノ事ハ以テ余輩ヲ驚スニ足ラサルナリ千八百七十五年即條約批准ノ翌年ニ於テ安南政府ハ早ク既ニ一ノ思考ヲ有シ一ノ企圖ヲ懷キタリ即狡策又ハ兵力ヲ以テ我ト締結シタル條約ヲ破毀センヿヲ思考シ安南東京及交趾支那ヨリ我カ國人ヲ驅逐センヿヲ企圖シタルヿ是ナリ

昨年十一月ピユジニエハ指令長官リゼエールニ向ヒ確實ナル根抵ヲ有セル報ナリトテ「順化政府ハ我カ國ト開戰スルニ議決シ」及其ノ準備ヲ爲セルヿヲ話シタリ諸君今日ニ至リテモ此ノ企圖ハ廢止セラレタリト思惟スヘカラサルモノアリ曩日東京ノ事變ハ蓋安南政府ノ命令ニ出テタルニ非サルヘシト雖多少其ノ意ヲ奉シタルモノナシト云フヘカラス

若シ東京ノ事ニ就キテ開戰ノ已ムヘカラサルニ至ルヿアラハ余ハ諸君ト共ニ之ヲ審議シ國家ニ有益ナル方法ノ議決ヲ要スヘシ今日余輩ノ謀議スル所ハ彼ノ國人ノ抵抗力ヲ緩メン爲ニソンコイ河口若クハ他ノ海岸ニ於テ封港權ヲ施行スヘキカ將タ占有權ヲ施行スヘキカノ問題是ナリ然レ𪜈余輩ハ安南人ト異ナリ勉メテ平和ノ手段ヲ用ヒンヿヲ欲スルモノナリ縱令既ニ開戰ニ至リタルヿアルモ是匪徒ニ對スルノ戰ナリ此ノ匪徒ハ安南國及孰レノ國ノ政府ト雖公然之ヲ援助スルノ理由ヲ有セサルモノナリ

諸君、余ハブリグリ君ノ憂慮スル所ヲ知レリ且余ハ之ヲ敬重セリ然レ𪜈同君ニ向ヒテ請フ所アリ即今日ノ事ハ公益上ニ如何ナル關係アル乎現ニ我カ國ト戰ヲ開クハ如何ナル人民ナル乎今日ノ事ハ必法式ニ依リテ從事スヘキモノナル乎ヲ判定セラレンヿ是ナリ

曩日吾人ノ東京ニ從事シタルハ條約上ノ權利ヲ保維センカ爲ナリキ而シテ今日ノ從事スル所ハ我カ兵ノ受ケタル慘禍ニ對シテ復讎ヲ遂ケンカ爲ナリ

今日ノ事ハ彼ノ浮浪ニシテ無籍ナル匪徒ヲ鎭壓スルカ爲ニ戰フノミ此ノ匪徒ヲ助ケテ隱ニ己ノ用ヲ爲サントスル者ト戰フノミ何ゾ法式ヲ問フヲ用ヒンヤ余ハ實ニ此ノ如キ疑問ノ今日元老院ニ出テンヿヲ圖ラサリキ

○合衆國移住民ノ減少（八月十日刊行獨逸キユルン新聞）合衆國政府ノ報道スル所ニ據レハ客年七月一日ヨリ本年六月三十一日ニ至ル移住民ノ數ハ大ニ減少セリ千八百八十一年ヨリ八十二年ニ亘ル一年度ハ移住民七拾八萬八千九百九拾貳人ナリシモ昨年度ハ五拾九萬九千百拾四人ニシテ其ノ減スルヿ殆ト拾九萬人ナリ殊ニ獨逸國ヨリ移住セシ者一昨年ハ貳拾五萬人ナリシモ昨年ハ拾九萬千人ニ減セリ然レ𪜈之ヲ愛耳蘭ヨリ移住セシ者ニ比スレハ尚三倍セリ蘇格蘭ヨリ移住セシ者昨年ハ少シク增加シ伊太利亞國ヨリ移住セシ者ハ三萬壹千人ニシテ一昨年ト同數ナリ

○氣象

○地理局報告

全國氣象摘要　廿九日氣壓ハ極北部ニ於テ最モ高ク極南部ニ於テ最モ低シ而シテ北或ハ東風吹ケリ北西部ハ烟霧九州及四國ハ陰天ニシテ其他ノ地方ハ快晴ナリ而シテ一般ニ溫暖ナリ○三十日氣壓ハ本地ノ南東ニ於テハ變動ナシ其他ハ沈下セリ殊ニ南西部ニ於テ最モ多シ而シテ最低ハ九州西部ノ沖ニ在リ最高ハ東海岸ノ沖ニアリ靜穩或ハ北東ノ風吹キ陰霽溫暖ノ天氣ニシテ西部ハ一般ノ雨天ナリ

左ノ表中二行ノ前ハ廿九日分ニシテ後ハ三十日分ナリ

全國氣象九月廿九三十日（京都時午前六時東京時午前六時十六分長崎時午前五時三十六分）

測候所	晴雨計	風向	風力	雨量	温度	天氣
長崎	七六七 七六三	北東	一〇		一三 二〇	曇 晴

鹿兒島	七六六 七六三	北東 北東	一 一	三	一八 二〇	曇 雨
宮崎	七六六 七六四	北西 東	一 一	三七	一四 二一	曇 雨
高知	七六七 七六五	北東	〇 二		一四 一八	曇 曇
和歌山	七六七 七六五	西 北東	一 一		一三 一五	快晴 曇
廣島	七六七 七六四	北	二 〇		一三 一七	晴 雨
大坂	七六八 七六六	北東 北東	一 二		一二 一六	快晴 曇
京都	七六八 七六六		〇 〇		一二 一六	快晴 曇
下ノ關	七六七 七六五		〇 〇	八	一五 一八	快晴 雨
境	七六八 七六五	東	一 〇		一〇 一七	霧 曇
金澤	七六八 七六六	南東	一 〇		一二 一四	烟霧 曇
岐阜	七六八 七六七		〇 〇		一三 一五	快晴 曇
濱松	七六七 七六六	北東 北	一 一		一四 一五	快晴 曇
沼津	七六八 七六七	東 東	一 一		一四 一七	快晴 曇
東京	七六八 七六八	北西 北	三 一	一	一五 一五	曇 曇
新潟	七六八 七六六	南東	〇 二	八	一四 一七	快晴 曇
秋田	七七〇 七六七	南東 東	一 二		一一 一三	霧 曇
野蒜	七六九 七六八	北 北	二 一		九 一三	快晴 曇
宮古	七七〇 七六九	西	一 〇		八 一一	快晴 曇
青森	七七〇 七六七		〇 〇		五 八	快晴 快晴
函館	七七〇 七六八	北	一 〇		七 一一	快晴 曇
札幌	七七一 七六八	東	一 〇		五 五	烟霧 烟霧

例言　晴雨計ハ佛厘ミリメートルヲ用フ○風向ハ眞方向ヲ示ス○風力ハ配方零ヨリ六ニ至ル（〇ハ靜穩一ハ軟風二ハ和風三ハ疾風四ハ强風五ハ暴風六ハ颶風）ヲ示ス○雨量ハ前二十四時間ノ量ヲ佛厘ミリメートルヲ以テ示ス○温度ハ蔭所ニ於テ攝氏ノ度ニ從フ（氷點ハ〇氷點上ノ十及二十度ハ一〇及二〇氷點下ノ十及二十度ハ九〇及八〇）

○海軍觀象臺報告

九月廿九日 三十日	午前三時	仝九時	午後三時
風雨鍼　英寸（インチ）	三十寸二一〇 三十寸一七二	三十寸二三一 三十寸一九〇	三十寸一五五 三十寸〇七七
寒暑鍼　華氏	六十度 六十一度二	六十四度三 六十五度四	七十二度 七十三度二
濕氣　一ヨリ百ニ至ル	七十六 八十七	六十八 八十	八十五 七十
風　方位　八點ニ區分ス	北 北	北 北	北東 北
風　速力　英里（マイル）	十里 六里	十一里 八里	九里 九里
天候　陰部一ヨリ十ニ至ル	晴陰部三 陰陰部九	薄陰陰部八 薄陰陰部七	薄陰陰部八 薄陰陰部九

記事

寒暑鍼（高極七十三度八低極五十八度三）（午前零時ヨリ午後二時ニ至ル間ノ實驗）天候昨廿八日午後續テ曇同三時二十分ノ頃暫時微晴シ同七時頃ヨリ稍晴ニ趣クト雖𪜈八時頃ヨリ復曇天トナル風ハ昨午後方位尙北ニシテ今午後二時過ヨリ漸次北東ニ轉ス速力ハ今午前十時頃迄平均約十里風雨鍼ハ稍上昇セリ

寒暑鍼（高極七十四度四低極五十九度三）（午前零時ヨリ午後二時ニ至ル間ノ實驗）天候ハ昨廿九日午後三時後瞬時疎雨シ爾後漸々晴ヲ呈ス夜ニ入リ大ニ快晴中夜ヨリ復陰リ本日ニ至リ尙陰天風ハ昨午後北東ヨリ北ニ轉シ速力ハ弱ニシテ今正午ニ至ル平均五里弱風雨鍼ハ稍上昇ヲ占ム

○廣告

○版權書目廣告

（松永一流）捷徑顆算初步　中本壹册　編輯出版　梶原清二　福岡
（生徒必携）小學珠算全書　小本九册　著並出版　西村譿二　木下豐二　仝
小學文寶　中本六册　編纂出版　齋藤時泰　加藤景山　神奈川

日本外史便蒙　中本八册　編輯出版　長瀬寛二　三浦源助　岐阜
小兒病各論　中本貳册　纂譯出版　瀬川昌耆　宮城
西暦一千八百七十一年刊行　原題名レールブーフ、デル、ゲボルツヒルヘ、ヒュール、スチュデンテ、ウンド、アルツチ　原著　獨乙國コンスタイン
昆氏産科學　中本壹册　譯並出版　石川清忠　長谷川泰　東京
西暦一千八百七十八年刊行　原題名コムペンヂユム、デル、ヒル、ゲーセン、インストロメント、ヴェルバンド、ウンド、オペラチオンスレーレ　原著　獨乙國ハイツマン
海都滿氏外科手術學　大本貳册　譯並出版　石川清忠　長谷川泰　仝
西暦一千八百八十年刊行　原題名グロンドリッス、デル、アナトミー、デス、メンセン　原著　獨乙國ヘンレー
賢列氏解剖學　大本六册
同　圖譜　大本六册　譯並出版　石川清忠　長谷川泰　仝

右本日版權ヲ免許ス

皇朝易知錄　中本三十一册　著出版　清水彥介　內潟爲爲　東京
西暦一千八百七十六年刊行　原題名ヒストリー、ブライメル、ユウロッパ　原著　英國エドロードエフリーマン
歐洲史略　大本三册　譯出版　吉貫亨　大阪
日本諳射地圖　七枚　著出版　山下嚴麗　兵庫
（下等）小學習字本　大折本八帖　書出版　大沼讓　河原田盛美　千葉
理學新書　中本十一册　譯出版　福田正二　山口

右本日版權返納ヲ許可ス

明治十六年九月廿七日　內務省

西暦一千七百五十三年　原題ヂスクールシュツルロリヂーヌドリチガリテドロンム　原著　瑞西國ジャンジャッククルーソー
人間不等論　小本壹册　譯出版　田邊希直　宮城
滋賀縣管內地理問答小誌　小本二册　編輯兼出版　上村文彥　山中光治　滋賀
（生徒必携）小學筆算書　中本四册　輯　出版　武田信衡　岡村正義　伏見恒吾　森祐藏　岡山
（生徒必携）小學珠算書　中本四册　輯　出版　高橋孫太郎　江木信　伏見恒吾　森祐藏　仝

萬國通史字引　小本三册ノ內二册　編輯出版　牧村桓一郎　和歌山
小學作文類題　小本二册　著出版　若生精一郎　今野和內　宮城
小學綴字書　中本二册　編輯　出版　内海共之　中島元　中川アサ　愛知

右本日版權返納ヲ許可ス

明治十六年九月廿八日　內務省

西暦一千八百八十年刊行　原題ヒヂックス　原著　英國スチュアルト　譯補　玉名程三
物理新編　中本三册　出版　松井忠兵衛　島田雅太郎　西村玄道　東京
西暦一千八百七十七年刊行　原題シルエルジーヴルテリチール　原著　佛國ブーク　ツーサン
獸醫外科書　全二十五册ノ內小本八册　譯出版　今泉六郎　深谷周三　同
西暦一千八百六十八年刊行　原題パトロジーウェテリネール　原著　佛國ラフォッス
獸醫內科書　全二十五册ノ內小本八册　譯出版　一柳直宰　深谷周三　同
ユニョン氏第二リードル字書　小本一册　直譯出版　尾上任澄　加藤鋼吉　同
W. D Cox's glimpses of English literature for Japanese Students Part II. III. IV. V.　小本四册　出版　丸善商社　同

右本日版權ヲ免許ス

明治十六年十月一日　內務省

○廣告

官報購讀義務者外ニシテ官報代金三圓ヲ納メ毎號壹部送リ即チ初號ヨリ百號迄遞送約定ノ分ハ來ル十月廿三日滿期ニ付引續購求又ハ解約トモ來ル十月十五日迄ニ當局ヘ到達ノ日割ヲ以テ通知有之度此旨廣告候事

明治十六年九月廿七日　驛遞局

第 79 号 本文

第79号本文

○書籍刊行廣告

一王權論　全部二十冊ノ內第四冊　定價金拾七錢五厘
右刊行ス（東京京橋區八官町十九番地忠愛社ヘ發賣ヲ允許ス）
一訴訟法覆義　全部四卷ノ內第一卷　定價金壹圓三拾五錢
右刊行ス（東京日本橋區西河岸町十二番地須原鐵二ニ發賣ヲ允許ス）

明治十六年十月一日　元老院

○廣告

明治十六年第三期七月東京府ニ於テ醫術試驗ヲ受ケタルモノ八十一人ノ內合格ニシテ內務卿ノ免狀ヲ授與シタルモノ二十五人ナリ其人名ハ左ノ如シ

但名列ハ點數ノ順序ニ依ル

內外科
島根縣士族　山口甲子次郎　群馬縣平民　星野淺治郎
東京府士族　大池完一　兵庫縣平民　前川榮
麑島縣士族　肥田木重志　石川縣士族　林規
長崎縣平民　久松次郎　山形縣平民　後藤源太郎
巖手縣士族　工藤敬崇　山形縣士族　鳥海恭寛
石川縣士族　本保德太郎　麑島縣士族　田上耕助
富山縣平民　河合賴定　新潟縣平民　草野龜吉
東京府士族　大橋九十郎　福岡縣士族　豐島恕平
山形縣平民　石川尙益　愛知縣平民　稻垣隆三郎
岐阜縣士族　牧野愼一　石川縣平民　村松紀靖
愛媛縣士族　磯崎是知　宮城縣平民　鈴木惇
富山縣平民　城石勞太郎
齒科專門
山形縣平民　佐川文一郎　神奈川縣平民　渡邊欽三

明治十六年十月一日　東京府廳

○廣告

起業基金幷事業景況第五回報告大藏省ヨリ發行ニ付各郡區役所ニ備ヘ置ケリ就テ見ルヘシ此旨廣告ス

明治十六年十月一日　東京府廳

○廣告

本月廿一日以后清國通州ヘ通信ヲ開キ電報料壹語ニ付通州上海間ノ分墨銀四拾仙ト相定候ニ付之ニ上海迄ノ料金ヲ併加徵收ス但北京ヘノ電報ヲ通州ヨリ郵送セント欲セハ必ス「通州ヨリ郵送」ナル語辭ヲ記入課金セシメ外ニ一通ニ付郵送賃墨銀四拾四仙ヲ徵收ス
右瑞西國萬國電信事務局ヨリ通知有之候條此旨廣告候事

明治十六年十月　電信局

○郵便沒書廣告（九月廿七日分）

○神田黑門町新道八十八番地青木柳宛小傳馬ヨリ○京橋區木挽町壹丁目拾番地石川與三郎宛濱田菊三○中根德次郎宛伊豆本染吉○新市塲渡邊宛濱町三丁目壹番地百五番魚市塲御存ヨリ○魚津大町岸本吉五郎宛田中與十郎○東水橋酒井源造宛若松嘉三郎○婦負郡萩野島村正榮寺ニテ水野行深宛泉村小野行運○新潟縣下越後國新潟區古町秋田屋ニテ岸本萬次郎宛富山縣下越中富山堀瑞町富山さき○播磨國姫路大黑町六十五番地前田常二宛長森藤次郎○越中伏木港宿屋蓮花宗右衞門方花又榮三郎宛富山善七○石川縣能登國白井郡今濱村中村市右衞門宛富山宅次郎○宮城縣下宮城郡南小泉村菊池兼吉宛宮城縣白石柳町尾上玉市○豐前國下落合村淵上善六宛吉井驛善市○東京府上ノ町宇津野宗公宛前島小三郎
右心當リノ者ハ爲受取驛遞局ヘ罷出候歟又ハ書狀ヲ以テ申越候樣可致事

明治十六年十月　驛遞局

○郵便船出帆廣告

本日午後一時本局締切志摩丸ヲ以テ四日市ヘ向ケ郵便差立候事
本日午後六時卅五分本局締切和歌ノ浦丸ヲ以テ神戸ヘ向ケ郵便差立候事
本月二日午後一時本局締切小菅丸ヲ以テ（函館小樽）ヘ向ケ郵便差立候事

明治十六年十月一日　驛遞局